



2018年2月
個人投資家様向け説明会

第1部

グループ概要

沿革

- 1916 年（大正 5年） 富田商会を設立
- 1941 年（昭和16年） 日本窒素肥料の系列に入り、日窒運輸(株)に社名変更
- 1946 年（昭和21年） 日窒運輸(株)が解散
- 1946 年（昭和21年） 扇興運輸(株)を設立
- 1961 年（昭和36年） 大阪証券取引所市場第2部に上場
- 1973 年（昭和48年） センコー(株)に社名変更
- 1975 年（昭和50年） 大阪証券取引所市場第1部に上場
- 1990 年（平成 2年） 東京証券取引所市場第1部に上場
- 2017 年（平成29年） センコーグループホールディングス(株)に社名変更

概要

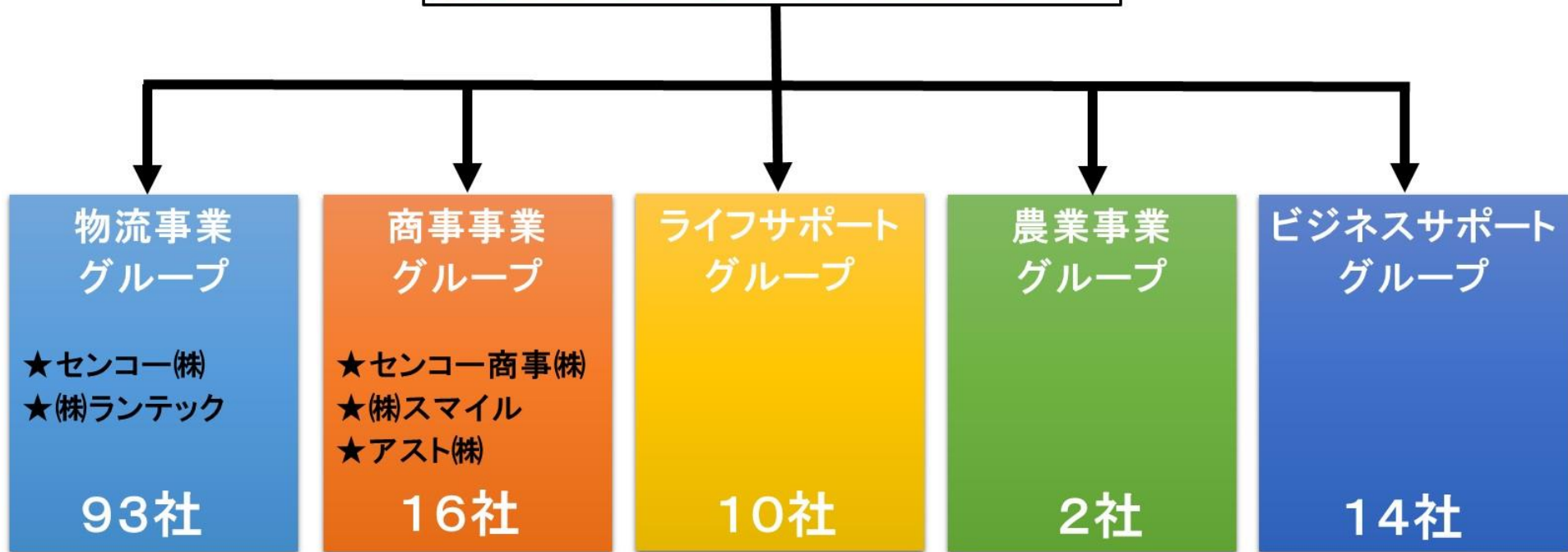
2017年12月末現在

会社名	センコーグループホールディングス 株式会社
代表者	代表取締役社長 福田 泰久
本社所在地	東京都江東区潮見2-8-10 潮見SIFビル
創業	1916年9月
設立	1946年7月
資本金	265億28百万円
発行済株式総数	152,861千株
単元株式数	100株
グループ会社数	135社(子会社126社 関連9社)
国内事業所数	512カ所
海外事業所数	57カ所
グループ車両台数 (非牽引車を含む)	5,916台
支配船舶数	67隻
倉庫総保管面積	333万㎡
従業員数	15,965名



センコーグループ

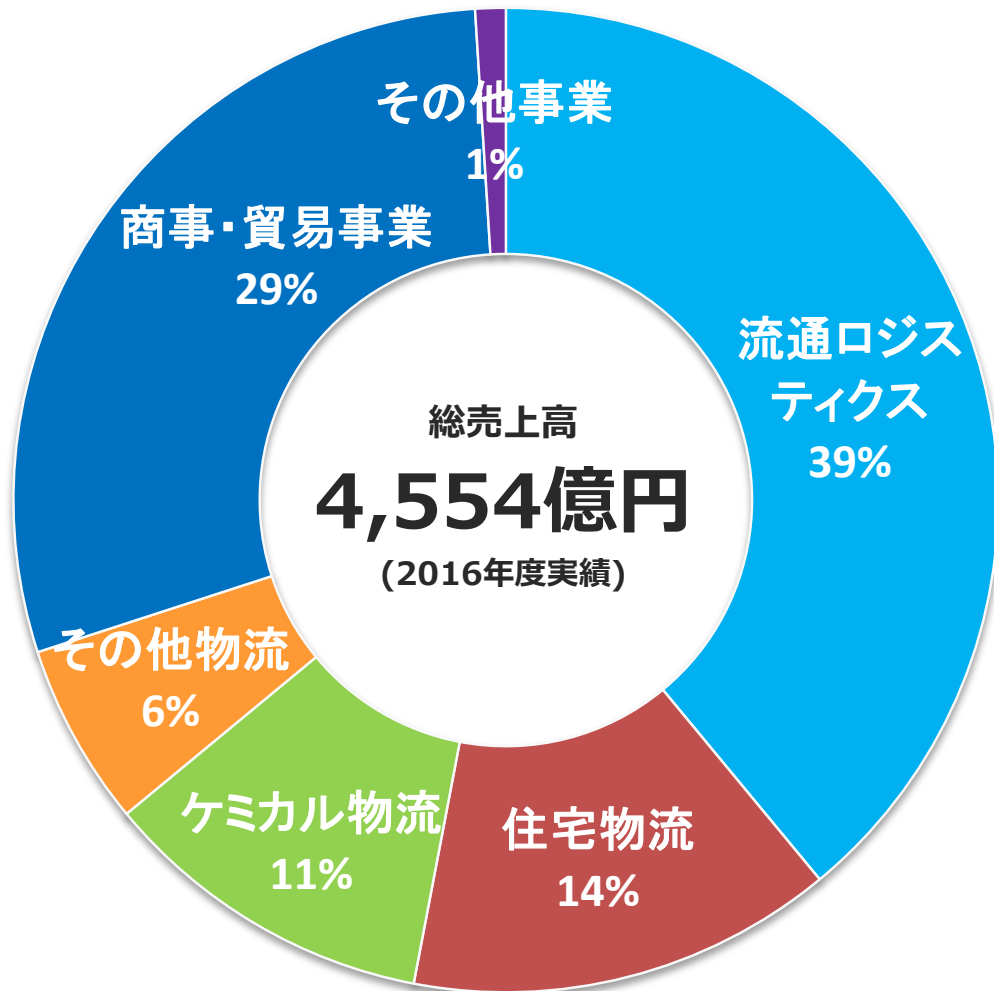
センコーグループホールディングス株式会社



※ ★印は、中核会社

※ グループ会社総数：**135社**（2017年12月末現在）

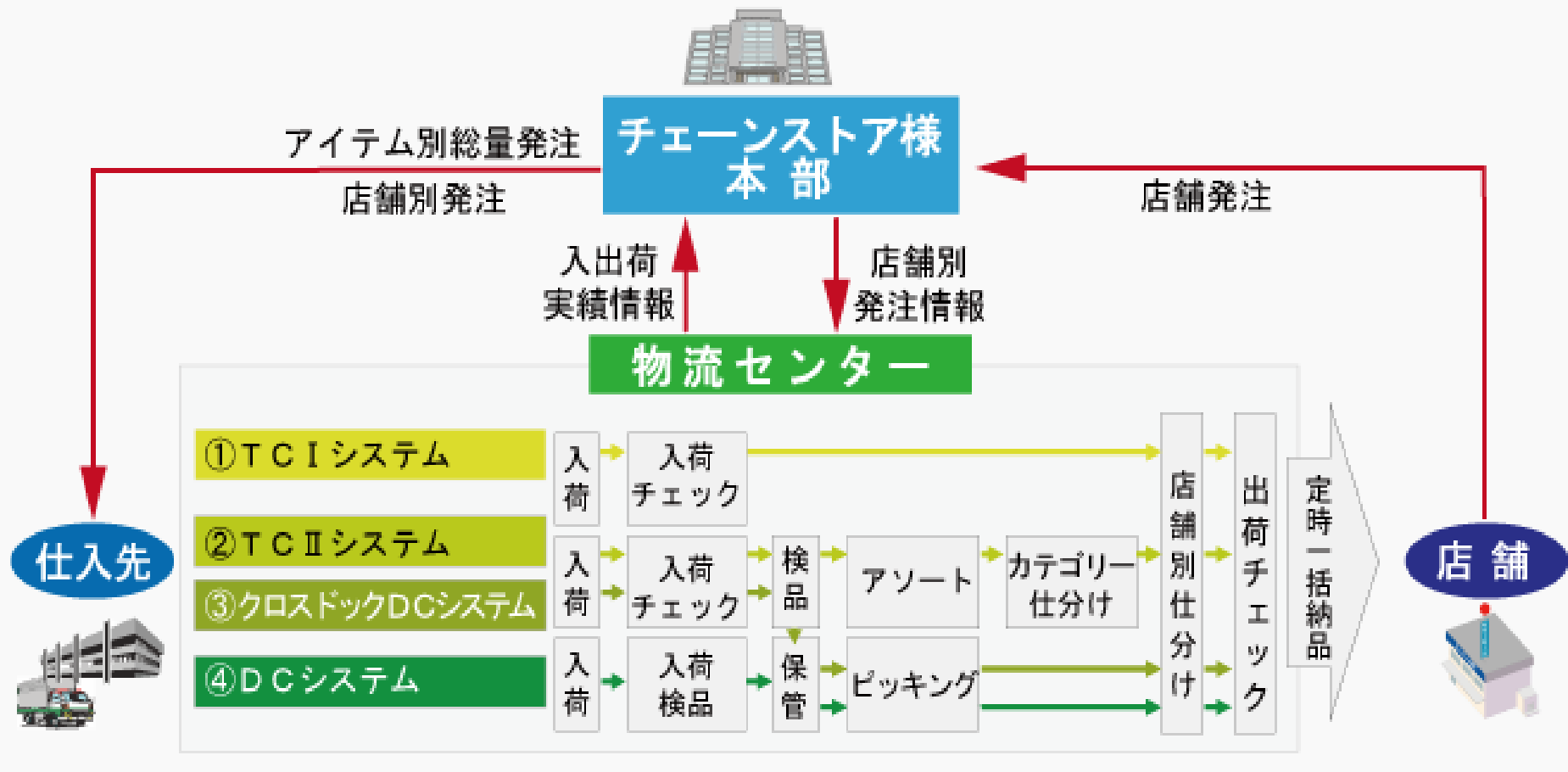
事業別売上高



(2016年度実績)

流通ロジスティクス	1,776 億円	39%
住宅物流	609 億円	14%
ケミカル物流	511 億円	11%
その他物流	284 億円	6%
物流事業 計	3,180 億円	70%
商事・貿易事業	1,329 億円	29%
その他事業	46 億円	1%
合計	4,554 億円	100%

量販・小売店向け物流

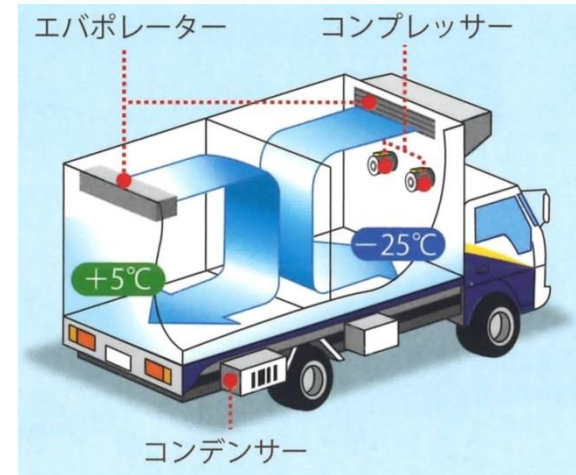


低温（冷凍・冷蔵）物流

ランテックの低温輸送サービス「フレッシュ便」

（株）ランテックは1953年に設立された低温物流会社。
2層式冷凍車（右図）など1,000台を超える車両・鉄道コンテナや約7万㎡の
冷凍倉庫を所有し、全国規模で低温物流事業を展開。

小口混載低温輸送「フレッシュ便」は、24時間365日対応できる低温輸送
サービスとして、多くのお客様から高い評価をいただいている。



◎フレッシュ便の集荷・配送までの流れ。



ファッション物流

ファッション物流センターにQC(品質)ルームを設置。入荷から店頭まで一貫した品質のコントロール。また、入荷から販売までのリードタイム短縮も図る。



ファッション商品に特化した専門スタッフによる「在庫管理」「流通加工」等、高品質なサービスを提供。



QC

DC

Fashion Logistics

Transport



全国の百貨店、商業施設などの配送ルートを確認。

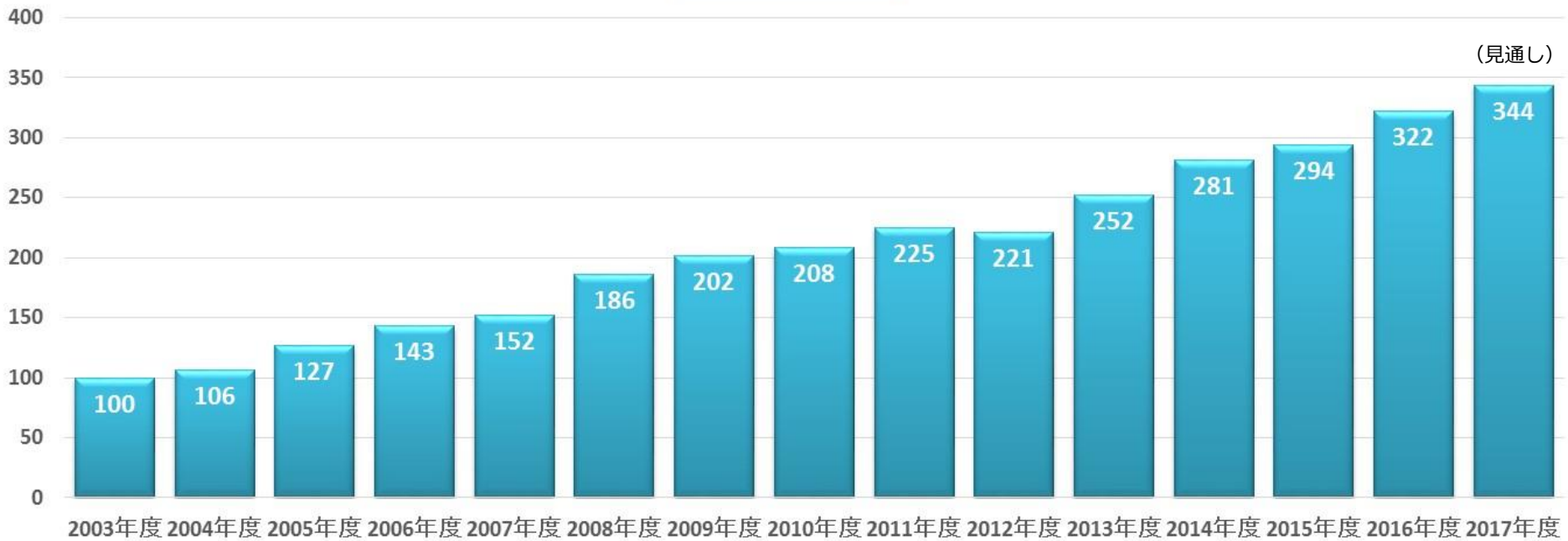
輸送車両にはハンガー車両を使うなど、輸送品質の向上、梱包資材コストの低減を図っている。

センコーの強み

- ◎ 拠点ネットワークとサービスの多様化
- ◎ コンサルティング力とシステム提案力
- ◎ 現場力、営業力
- ◎ 人材力

物流センターの拡大

総面積の推移



物流サービス・商品の多様化

◎グループ化した主な会社

社名	事業内容	グループ入り
センコーエーラインアマノ(株)	建設用資材の輸送	2007年7月
東京納品代行(株)	百貨店納品代行業	2009年2月
江坂運輸(株)	百貨店への納品、館内物流	2009年10月
阪神運輸(株)	百貨店への納品、館内物流	2009年10月
ハーコブ(株)	楽器（ピアノ）・精密機器・重量物の輸送	2012年1月
三協物流荷役(株)	農産物及び雑穀類の輸送・配送	2014年6月
(株)ランテック	冷凍食品などの温度管理輸送、倉庫業	2014年10月
アクロストラnsポート(株)	百貨店納品代行業、自動車運送事業など	2016年4月
日本マリン(株)	内航・外航海運事業	2017年4月
栄吉海運(株)	内航運送業、一般はしけ運送事業、曳航業	2017年4月
安全輸送(株)	貨物自動車運送事業、宅配事業、引越運送事業、倉庫業	2017年10月

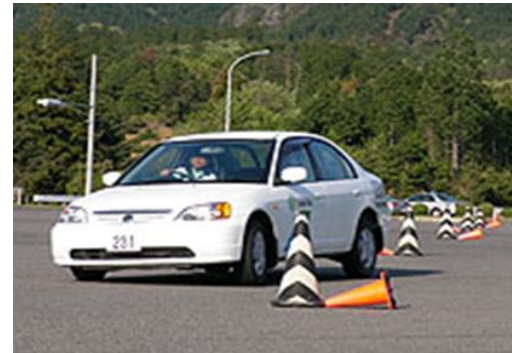
コンサルティング力とシステム提案力

- ◎ 1965 (S40) 大型コンピュータ導入
- ◎ 1970 (S45) 物流コンサルティング開始
- ◎ 1978 (S53) センコー情報システム(株)設立
- ◎ 2008 (H20) ｼﾞ・ソリューション(株)設立

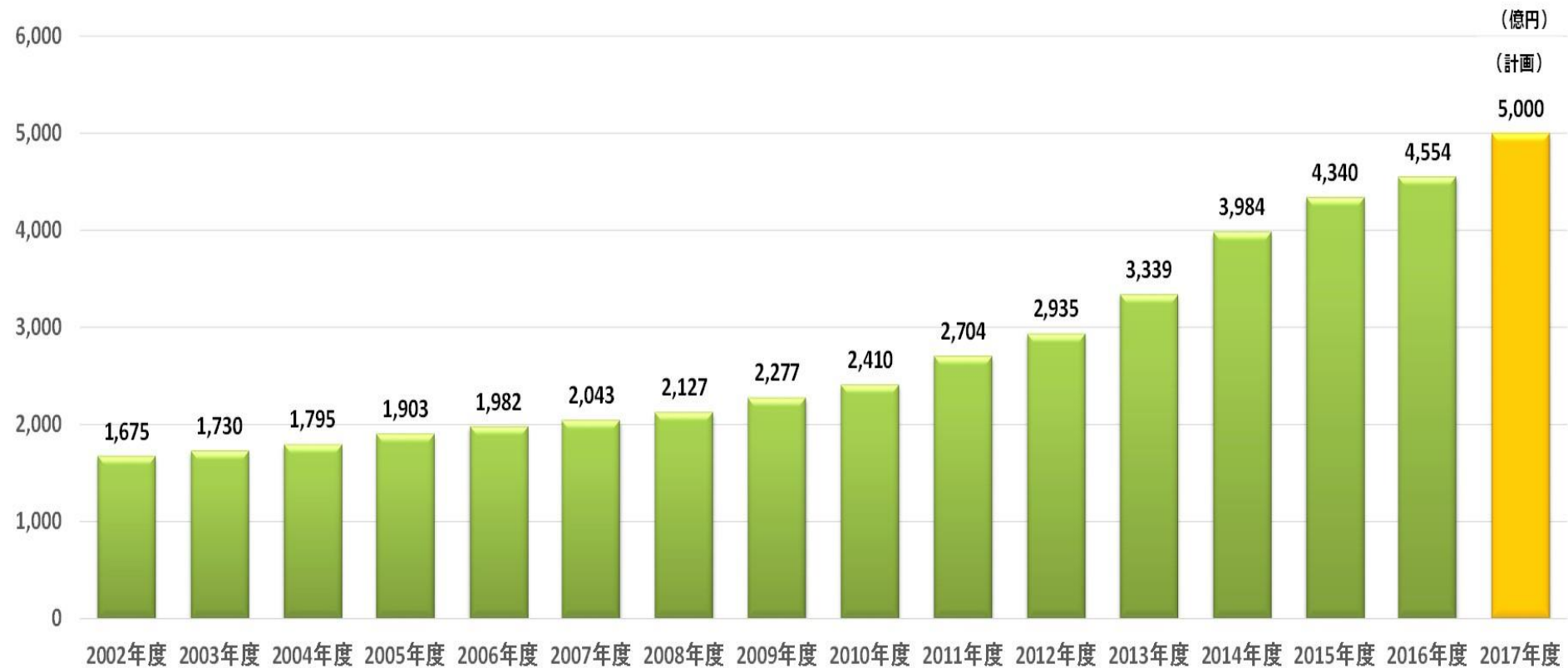
現在、200名の情報S E、
100名の物流S Eが在籍

センコーの“現場力”を支える「クレフィール湖東」

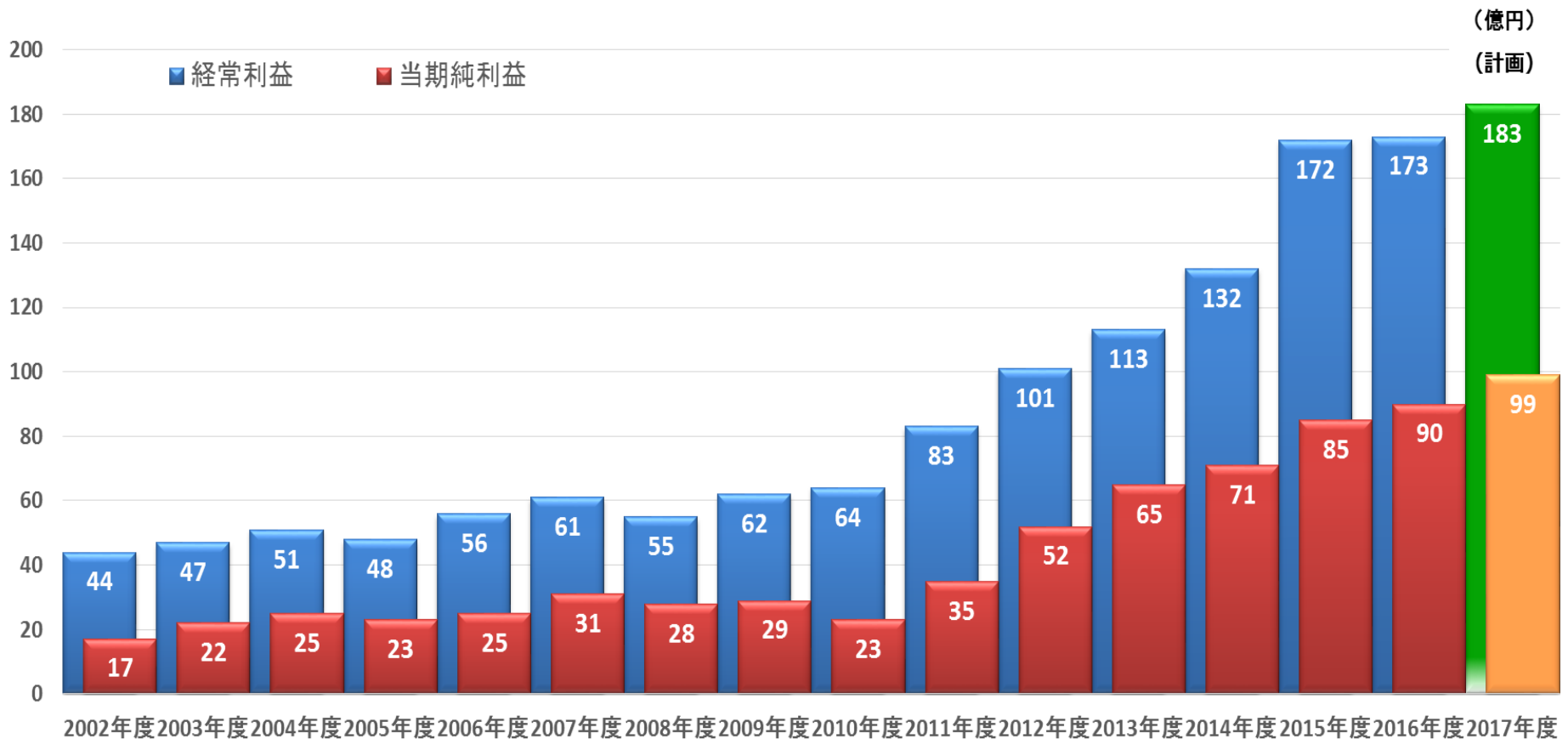
- 日本最大級の物流・交通研修施設 総敷地面積**27**万㎡
- 大型自動車と牽引免許の指定教習所を開設



業績推移 (売上高)



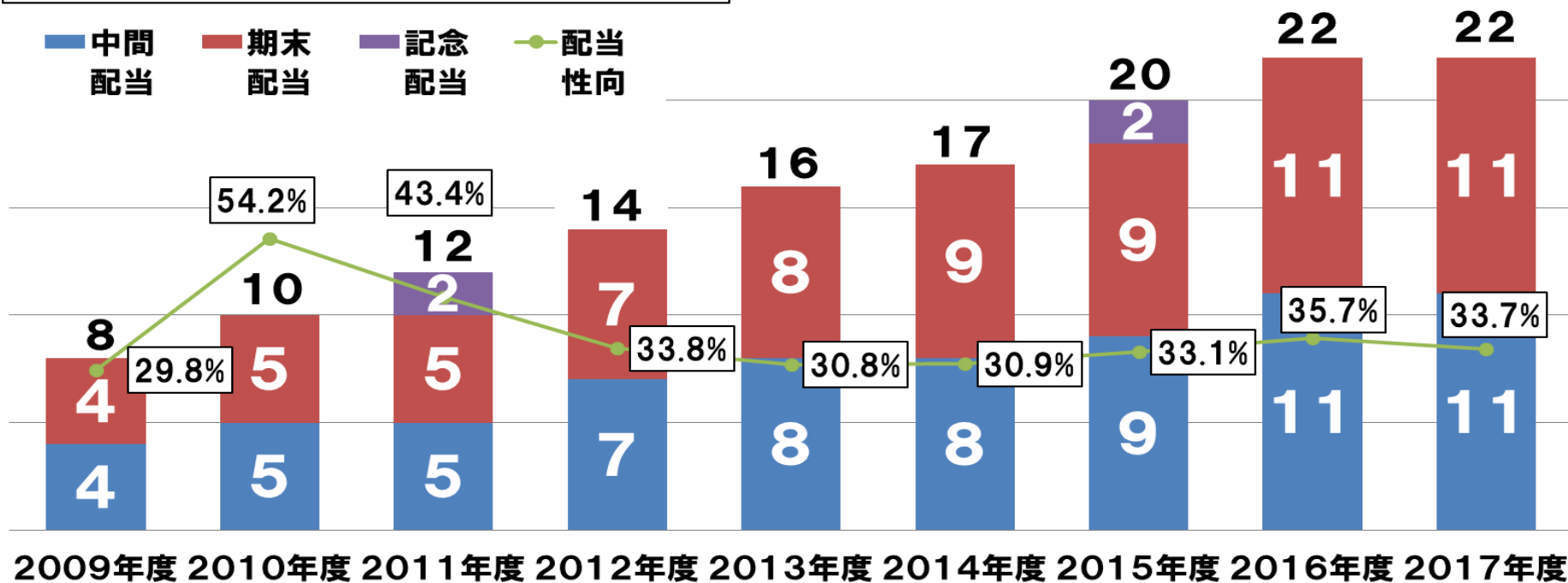
業績推移（經常利益、当期純利益）



配当の状況

将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しながら、株主の皆さまへの利益還元を充実させるため、センコーは安定配当に加えて業績連動を考慮した配当実施を利益配分の基本方針にしています。

1株あたり配当金(円/株)と配当性向の推移



第2部

2017年度～2021年度 中期経営計画について



2017-2021年度中期経営計画「SIP21」

- 2017-2021年度中期経営計画「**SIP21**」（セノー・イノベーション・プラン 2021）は、「人々の暮らしと産業を支える企業グループ」として、新潮流の創造に 挑戦し、新たな100年を切り拓いていく私たちの成長戦略です。

戦略の方向性



「Moving Global」の実現

～ 物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える ～



グループ一体となり、国内外の経済・社会にイノベーションを起こす。

グループ中期経営方針

(1) 事業領域の拡大

海外での事業拡大の加速、国内での既存事業の高度化、ライフサポート・ビジネスサポート事業などの新事業領域に進出する。またそのために、積極的な業務提携やM & Aも推進する。

(2) ブランド価値の向上

グループ総合力を結集させ「驚きと感動を与えるサービス」を提供し、顧客満足度(CS)から顧客感動(CD)へ進化する。

(3) 従業員満足度 (ES) の向上

幅広い人材が集まり、成長し、活きる環境へ価値を高めるため、多様な制度づくりと活発な利用を通じ、従業員満足度を向上する。

(4) 社会的責任 (CSR) の重視

地域・各地の産業、文化、自然を守り、育て、社会とともに成長する。

(5) 資本市場の信頼獲得

企業グループ全体の価値の最大化を図るとともに、財務健全性を高める。

主要な中期経営目標


	2016年度 実績	2021年度 目標	増加額	増加率
営業収益	4,554 億円	7,000 億円	2,446 億円	53.7 %
営業利益	171 億円	280 億円	109 億円	63.7 %
営業利益率	3.8 %	4.0 %	0.2 p t	—
自己資本当期純利益率 (ROE)	9.5 %	10.5 %	1.0 p t	—
自己資本比率	35.1 %	40.2 %	5.1 p t	—
物流センター保管面積	322 万㎡	400 万㎡	78 万㎡	24.2 %
自社車両台数	4,426 台	6,700 台	2,274 台	51.4 %

グループ中期経営方針の重点施策

事業領域の拡大

海外での事業拡大の加速、国内での既存事業の高度化、ライフサポート・ビジネスサポート事業などの新事業領域に進出する。またそのために、積極的な業務提携やM & Aも推進する。

[主な重点施策]

- 
- ① 物流・商流事業のさらなる拡大
 - ② 海外事業の拡大
 - ③ ライフサポート・ビジネスサポートなどの新事業進出
 - ④ 業務提携・M & Aの推進

分野別売上高目標

		2016年度 売上高実績	2021年度 売上高計画	増減
センコーグループHD		4,554億円	7,000億円	2,446億円 (+53.7%)
		2016年度実績	2021年度計画	増減
物流事業	流通ロジスティクス	1,776億円	2,850億円	1,074億円
	住宅物流	609億円	650億円	41億円
	ケミカル物流	511億円	750億円	239億円
	その他物流	284億円	300億円	16億円
	物流事業計	3,180億円	4,550億円	1,370億円
商事・貿易事業		1,329億円	1,850億円	521億円
その他事業		46億円	600億円	554億円
合計		4,554億円	7,000億円	2,446億円
※上記に含む国際関係売上				
海外事業売上 (非連結・貿易含む)		(266億円)	(700億円)	(434億円)

分野別の重点施策 ①



- 物流センターのサービス多様化と拠点拡大
- 食品などの3温度帯物流拠点の拡充
- メーカー、卸一体運営（業界プラットフォーム）型拠点による事業拡大



- 在来工法住宅、プレカットメーカーの物流事業の拡大
- リフォーム分野、商業ビル・マンションなどの非住宅系物流への進出
- 住宅物流関連サービスの拡充

分野別の重点施策 ②



- ・バルクコンテナ輸送など競争優位性がある事業領域の拡大
- ・再生エネルギー関連物流の推進
- ・外資系・商社系物流の拡充

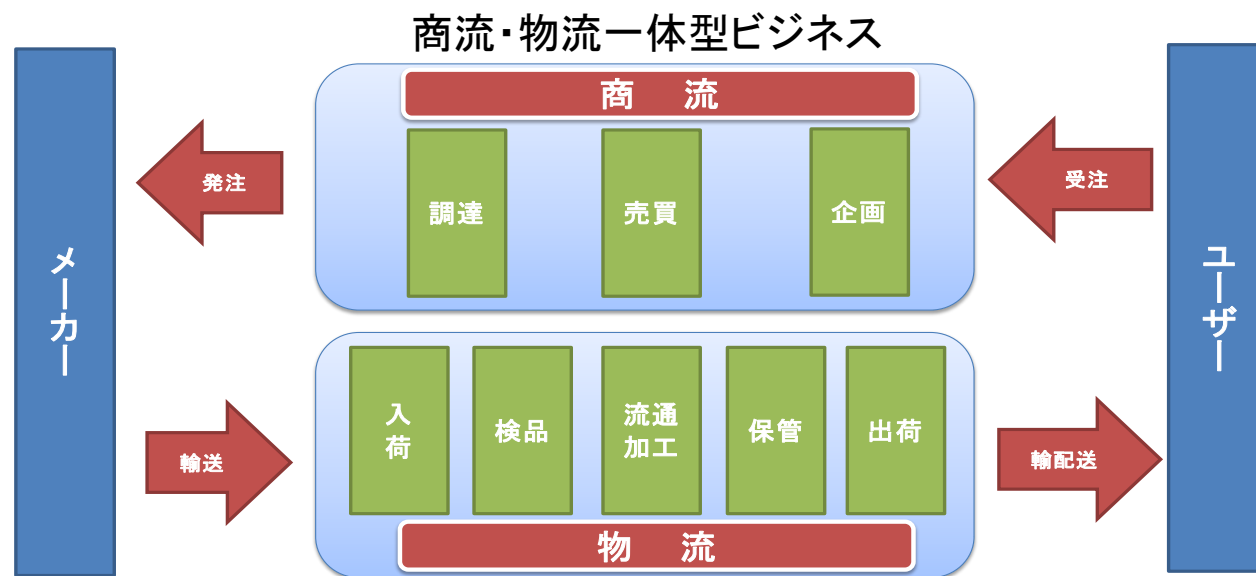


- ・病院・図書館・研究所などの移転業務の拡大
- ・同業および商社物流の拡大

分野別の重点施策 ③



- ・ 商流・物流一体型ビジネスの市場深耕
- ・ 新商品の開発・販売



分野別の重点施策 ④



- ヘルスケア事業の推進 (介護施設など)
- 生活関連事業の推進・強化 (家事代行業務など)
- ホテル事業の推進
- 農業事業の拡大
- ビジネスサポート事業の推進



- 国際物流事業の強化(拠点拡充、冷凍・冷蔵ネットの構築、国際航空輸送進出)
- 商流事業の未進出エリアでの展開

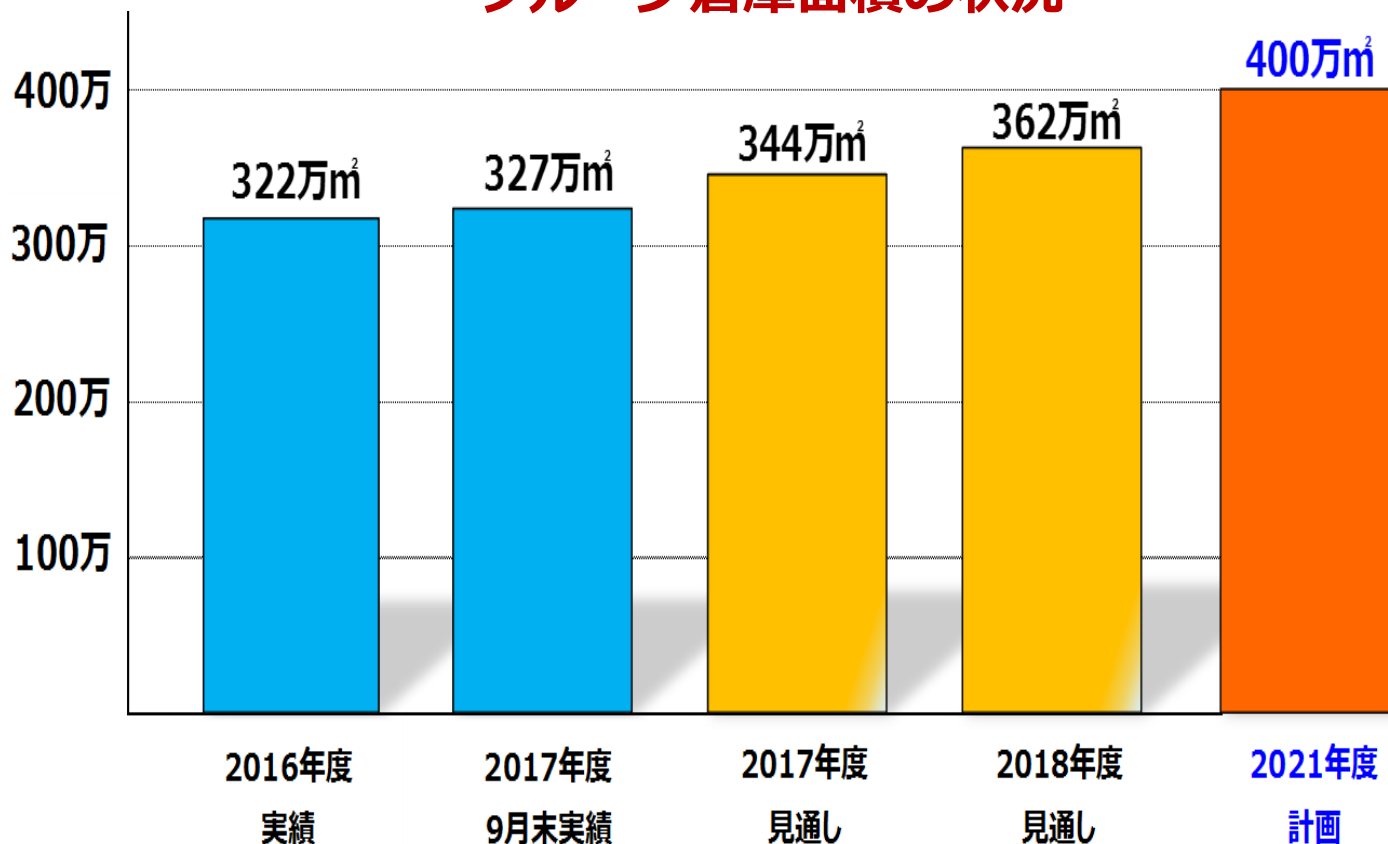
第3部

最近の事業活動について

物流センター事業の拡大①

中期経営5カ年計画目標の400万㎡体制に向けて

グループ倉庫面積の状況



▼四日市第2PDセンター



▼新小牧PDセンター



▼広島PDセンター



物流センター事業の拡大②

(1) ドラッグストア向け物流業務が拡大

① S社向け物流業務を中部・関西エリアで拡大

- ・2015年より四日市、小牧、守山、西神戸、門真の5拠点で物流業務を受託。

② W社向け物流業務を東日本エリアで拡大

- ・今年度開設した物流センターは、下記の2センター。
- ・現在開設済みのセンターは、富士、厚木、小牧、日野、嵐山、青森の6拠点となる。

2017年6月	嵐山物流センター	埼玉県嵐山町
2017年9月	青森物流センター	青森県五所川原市

- ・現在の富士の拠点を下記の新センターに業務移管の予定。

2018年3月 (予定)	東富士PDセンター	静岡県富士市
-----------------	-----------	--------



東富士PDセンター

③ C社向け物流業務を受託

- ・2015年度よりセノー-小牧、ラジック名古屋の2拠点で物流業務を受託。
- ・静岡県内の店舗向け物流業務を受託し、10月より、新富士PDセンターを開設。

2017年10月	新富士PDセンター	静岡県富士市
----------	-----------	--------

物流センター事業の拡大③

(1) ドラッグストア向け物流業務が拡大

④ ドラッグストア向け物流の売上高

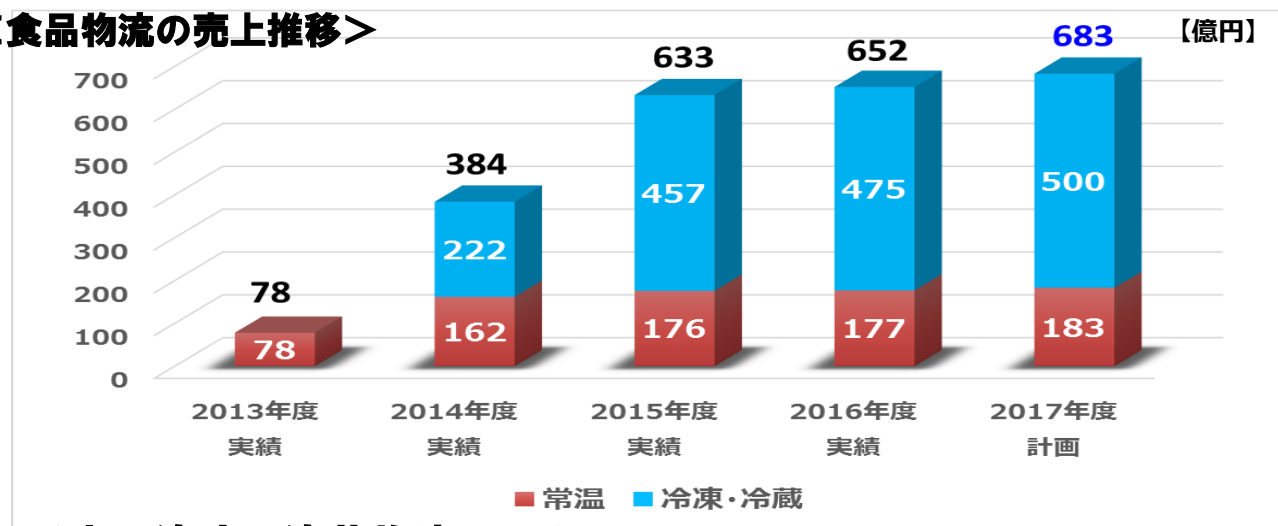
3年間で約2.5倍の売上高



物流センター事業の拡大④

(2) 食品関連の3温度帯物流が拡大

＜食品物流の売上推移＞

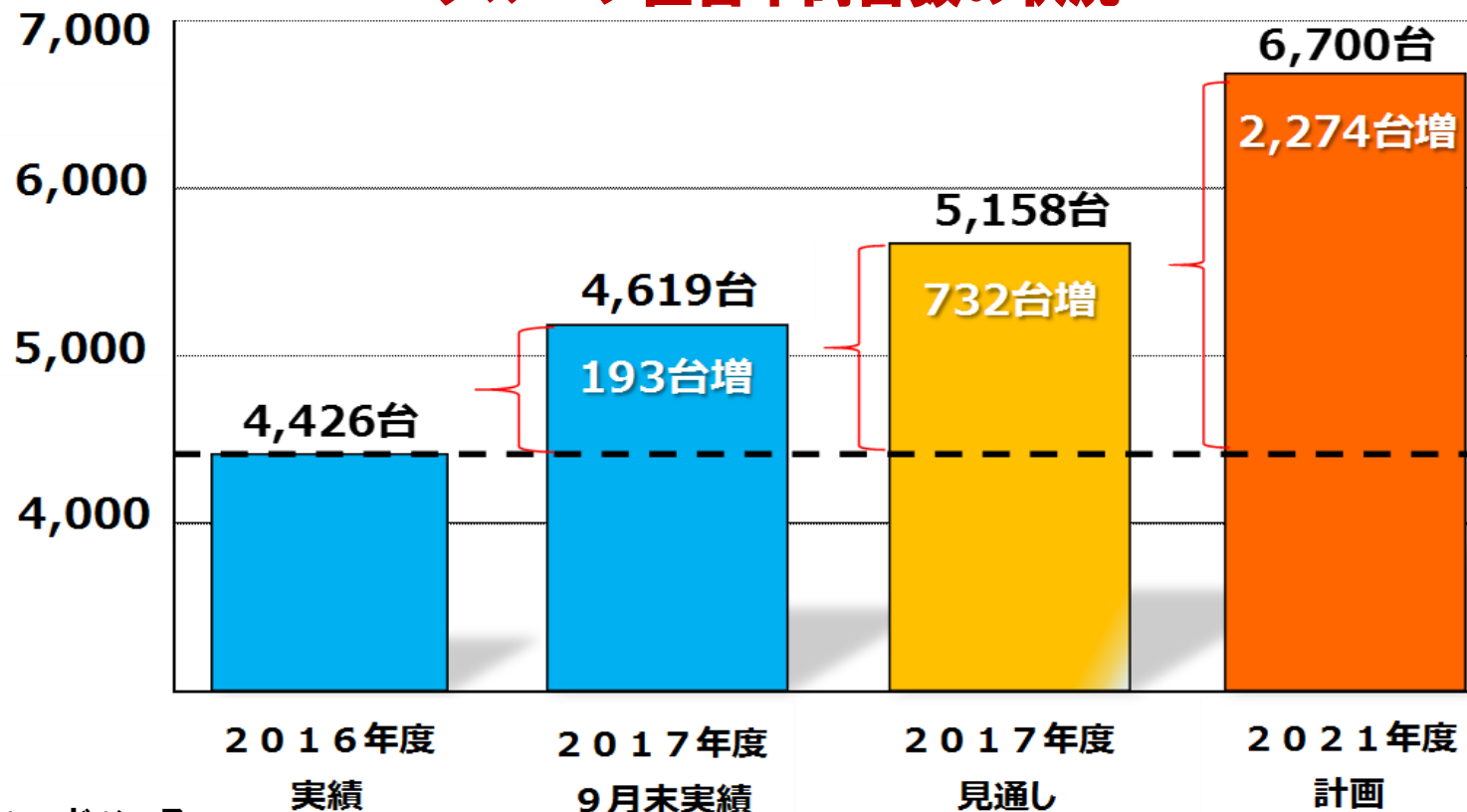


◎今後開設予定の冷凍・冷蔵物流センター

2018年3月	広島第2センター	広島県東広島市	9,900m ²
2018年4月	大阪南港センター	大阪市	20,400m ²
2018年4月	福岡センター	福岡県久山町	12,000m ²
2018年8月	加須PDセンター(2期)	埼玉県加須市	常温 : 24,000m ² 冷凍冷蔵 : 28,000m ²
2019年4月	関西センター	兵庫県西宮市	30,000m ²
2019年4月	門司センター	福岡県北九州市	13,600m ²

車両体制の強化

◎ グループ直営車両6,700台体制に向けて
グループ直営車両台数の状況



※台数はヘッドベース

商事事業 商品・サービスの多様化

◎グループ化した主な会社

社名	事業内容	グループ入り
(株)丸藤	家庭日用品卸売業	2009年7月
(株)スマイル	包装資材の製造・販売業、食品、酒類、生活雑貨等の卸売業など	2011年8月
(株)オバタ	健康補助食品、日用雑貨等の企画販売	2012年9月
アスト(株)	家庭紙及び日用雑貨の卸売業など	2013年9月
(株)オクムラ	スリッパなどの製造・販売	2017年9月

ライフサポート事業 M & Aでサービス多様化

社名	事業内容	グループ入り
(株)けいはんなヘルパー ステーション	訪問介護、デイサービス、 住宅型有料老人ホームの運営	2016年10月
(株)イエノナカカンパニー	清掃代行を中心とした家事支援、 サービスアパートメント等の管理、 不動産仲介など	2017年1月
(株)ブルーアース	フィットネスクラブ、 有料老人ホームや 接骨院などの運営	2017年9月
(株)ビーナス	リハビリ型、フィットネス型 半日デイサービス事業や 訪問看護事業	2017年10月

ご清聴ありがとうございました。